

平成22年度 福井南養護学校 学校評価総合シート No.1

回答者	項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準
小学部 教員 (介助員除く)	教育課程 ・ 学習指導 —小学部—	児童に適した自立活動の内容や方法を工夫し、実践する。	「人間関係の形成」を目指した指導内容の充実と方法の工夫に取り組む。	児童に応じた「人間関係の形成」のねらいを意識し、実践を振り返り改善に取り組んだか。(取組指標)	私は、児童に応じた自立活動の指導内容・方法の検討や改善に A 十分取り組んだ。 B おおむね取り組んだ。 C あまり取り組むことができなかった。 D 全く取り組むことができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善のための方法を見直し、検討する時間を確保するなど体制の見直しを行う。
小学部 保護者				身近な人とのやりとりやかかわりを広げる指導について、自分の子どもの目標や内容、その成果や課題が理解できましたか。(満足度指標)	私は、身近な人とのやりとりやかかわりを広げる指導について、自分の子どもの目標や内容、その成果や課題が A 十分理解でき、子どもに応じていると思う。 B ほぼ理解でき、おおむね子どもに応じていると思う。 C あまり理解できず、子どもに応じているかどうか分からない。 D 全く理解できなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、保護者との話し合いが十分とれるようにし、指導の内容や方法を見直す。
中学部 教員 (介助員除く)	教育課程 ・ 学習指導 —中学部—	自立活動のねらいを意識した授業改善に取り組む。	自立活動の「時間における指導」の内容や方法の見直しを図ると共に、「配慮して行う指導」のねらいや方法などの検討に努める。	自立活動の内容や方法を見直したり、ねらいの検討に努めるなどの授業改善に取り組むことができたか。(取組指標)	私は、自立活動の内容や方法を見直し、ねらいの検討に努めるなど A 校内研究会や学級などで積極的に検討し、授業を改善した。 B 校内研究会や学級などで十分検討し、授業改善に活かした。 C 校内研究会や学級などの検討に加わったが、あまり授業改善に活かせなかった。 D 校内研究会や学級などであまり検討できず、授業改善がほとんどできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、学部検討会を行うなどして自立活動の研修に改めて取り組む。
中学部 教員 (介助員除く)				授業改善の取組によって、生徒の自立活動のねらいがより効果的に達成できたか。(成果指標)	私は、生徒の自立活動のねらいが A 効果的に達成できた。(ねらいのステップアップができた) B おおむね効果的に達成できた。(支援計画のねらいが達成できた) C あまり効果的に達成できなかった。(指導計画のねらいは達成できた) D 効果的に達成できなかった。(指導計画のねらいが達成できなかった)	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、学部検討会を行うなどして効果的な授業改善の在り方を検討する。
中学部 保護者				個別の教育支援計画や指導計画で示された自立活動のねらいが十分達成されたか。(満足度指標)	子どもにとって、個別の教育支援計画や指導計画で示された自立活動のねらいが A 十分達成された。 B おおむね達成された。 C あまり達成されなかった。 D ほとんど達成されなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、自立活動や授業改善について再検討すると共に、保護者への伝え方についても検討する。
高等部 教員	進路指導 —高等部—	社会生活をしていく上で、生徒が直面する課題に対応するための授業作りを充実させる。	社会生活をしていく上で必要な課題を、金融教育や金銭教育などの視点で捉え授業作りに入れる。	授業や校外学習の中で、生徒の課題に応じた金融・金銭教育を行ったり、家庭への働きかけを行ったりすることができたか。(取組指標)	私は、自分がかかわった授業などの中で、生徒の課題に応じた金融・金銭教育の実践や家庭への働きかけが A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。(理由)	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、指導内容や方法、年間指導計画などを見直す。
高等部 保護者				子どもに応じた、お金に関する話し合いや実際の買い物など(ほしい物を選ぶ・我慢する、お金と物の交換、支払い、小遣い帳記帳、貯金)を家庭で行うことができたか。(取組指標)	私は、子どもに応じたお金に関する話し合いや実際の買い物など(ほしい物を選ぶ・我慢する、お金と物の交換、支払い、小遣い帳記帳、貯金)をさせることが A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、支援計画や指導計画作成時に金融・金銭教育の必要性について理解をしようとともに、保護者への伝え方についても再検討する。
高等部 職業・作業1 グループ生徒				お金の学習や買物学習を行い、一人で買い物をしたり、小遣い帳をつけたり、貯金をしたりすることができるようになったか。(成果指標)	私は、お金の学習や買物学習を行い、一人で買い物をしたり、小遣い帳をつけたり、貯金したりすることが A できるようになった。 それはどんなことですか。() B できなかった。 できなかったことは何ですか。()	回答者のAと判断した割合が70%未満の場合は、Bの内容を検討し授業改善や家庭への働きかけの方法の検討を行う。

平成22年度 福井南養護学校 学校評価総合シート No.2

回答者	項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準
寄宿舎 指導員	生活の指 導 — 倉務部 —	豊かに生活 する力を身 につけさせ る。	余暇の過ごし 方の広がり を目指した活動 の内容や方法 を子ども・家 庭に提供す る。	余暇の過ごし方の広がりを目指した活動の内容や方法を子どもたち・家庭に提供することができたか。 (取組指標)	私は、余暇の過ごし方の広がりを目指した活動の内容や方法を A 十分に提供することができた。 B おおむね提供することができた。 C あまり提供することができなかった。 D 全く提供することができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、活動の内容や方法を見直す。
				【目標指数】 A+Bの合計が80%以上		
寄宿舎生 の保護者				寄宿舎での取り組みを通し、余暇の時間(係の仕事、遊び、手伝いなど)にできることや好きなことが増えたか。(満足度指標)	子どもにとって、余暇の時間にできることや好きなことが A 2つ以上増えた。 B 1つ増えた。 C 増えなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、活動の内容や方法を見直すとともに、家庭への提供の仕方を再検討する。
				【目標指数】 A+Bの合計が70%以上		

平成22年度 福井南養護学校 学校評価総合シート No.3

回答者	項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準
P T A 運営委員 ・渉外部 教員				保護者の方々がP T Aの奉仕・余暇・研修活動に参加できるように工夫する。(取組指標)	私は、保護者の方々がP T Aの奉仕・余暇・研修活動に参加できるような工夫が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、工夫の方法や内容を再検討する。
全保護者	保護者との連携 -渉外部-	参加しやすいP T A事業の運営を目指す。	保護者がP T Aの奉仕・余暇・研修活動に年1回以上参加できることを目指す。	P T Aの奉仕・余暇・研修活動に1回以上参加できたか。(除草作業、学校行事準備、全体交流レク、地区活動、子育て講座、教育視察、県知P連活動)(成果指標)	私は、P T Aの奉仕・余暇・研修活動に A 年5回以上参加できた B 年3～4回参加できた。 C 年1～2回参加できた。 D 全く参加できなかった。 その理由はどのようなことですか。該当する言葉に○印をつけてください。 (日程的なこと、内容的なこと、関心がない、家庭の都合により) (その他)	回答者のAとBまたはCと判断した割合が80%未満の場合は、活動の内容や案内資料の提供の仕方を再検討する。
研修会・公開授業研究会担当部員	地域支援 -地域支援・図書研究部-	地域のニーズに添った地域支援を行う。	地域の特別支援学級担当者のニーズを収集し、本校の研究成果を生かして、研修会や公開授業研究会を行う。	参加者のニーズが把握しやすいアンケート項目やニーズに応じた研修会・公開授業研究会の企画運営が工夫できたか。(取組指標)	私は、参加者のニーズ把握やニーズに添った研修会・公開授業研究会の企画運営の工夫が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、ニーズ収集と企画運営の方法を検討する。
研修会・公開授業研究会参加者				研修会・公開授業研究会に参加し、今後の教育活動に生かせる情報を得ることができたか。(満足度指数)	私は、今後の教育活動に生かせる情報を、 A 十分に得ることができた。 B おおむね得ることができた。 C あまり得ることができなかった。 D 全く得ることができなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、参加者の事後アンケートをもとに、今後の実施方法を検討する。
全教員	組織運営 -校務分掌-	授業や生活を支えるという視点での効率的な業務遂行に向けての改善に取り組む。	学部校務と学校校務の兼ね合いを考慮した校務分担を行い、各自が校務遂行の工夫や改善に取り組む。	校務遂行の工夫や改善に取り組むことができたか。(取組指標)	私は、校務遂行の工夫や改善への取り組みが、 A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、できなかった理由を検討し、改善のための具体的な手立てを講じる。
全教員				校務遂行の工夫や改善に取り組む、業務の効率化がはかられたか。(成果指標)	私は、校務遂行の工夫や改善に取り組む、業務の効率化が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、できなかった理由を検討し、改善のための具体的な手立てを講じる。
全教職員	組織運営 -学校管理-	スクールプランの自覚と実践	スクールプランを踏まえた目標管理を試行する。	スクールプランを踏まえた、目標設定ができたか。(取組指標)	私は、スクールプランを踏まえた、目標設定が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、目標設定や達成に向けての具体的な手立てを講じる。
全教職員				年間を通して、目標を意識した実践ができたか。(成果指標)	私は、年間を通して、目標を意識した実践が A 十分にできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、目標設定や達成に向けての具体的な手立てを講じる。